

開講科目名 Course	証券市場論研究 (B) / Securities Markets (B)
時間割コード Course Code	13970
開講所属 Course Offered by	会計学研究科博士前期課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	野村 重明
科目区分 Course Group	関連科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野村 重明 (会計学研究科修士課程)
授業の目標	

授業の概要	<p>【授業の概要】 (学習成果) 知識・理解の領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デリバティブと金融の証券化と言う2つの金融の大きな流れは、世界的にはどのように発展したのかを理解すること。 2. これらの概要を知ること。 3. これらは、いずれも複雑な仕組みを持つ多様な金融商品として仕立て上げられ、市場で売買されていることを理解すること。 4. これらは日本にはどのように受容されてきたのか、また現状はどのようになっているのかを理解すること。 <p>関心意欲の領域</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 2008年のグローバル金融危機には、これらがどのように関与したのかにも思いをはせること。 6. 新聞・雑誌等のマーケット欄に掲載されるこれら金融商品の相場（特にデリバティブ関連）にも関心を持つこと。 <p>授業の概要 証券市場論は様々な観点からアプローチが可能である。ここでは、1970年代に始まりその後世界的な潮流となった2つの金融の流れ、つまりデリバティブと金融の証券化とについて考える。ただ、これら2つは、性質上、デリバティブでは技術的側面が、証券化では法的側面が非常に重要となる。しかし、この講義では、こうした側面については、必要な範囲で触れるにとどめざるを得ない。なお、この2つの金融の流れは、100年に一度とされる2008年のグローバル金融危機を惹き起こす元凶となったとも考えられているので、その点についてもできるだけ触れたい。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 授業の概要、研究姿勢、参考書について 第2回 デリバティブとは何か、その市場規模 第3回 スワップ取引 第4回 先物取引 第5回 先物取引の機能 第6回 オプション取引とペイオフ 第7回 合成オプション 第8回 クレジット・デリバティブ 第9回 金融の証券化とは 第10回 アメリカの証券化-モーゲージ担保証券の多様化 第11回 日本の証券化 第12回 証券化法制の整備 第13回 証券化の現状 第14回 証券化の意味 第15回 まとめ 定期試験を実施する。</p> <p>【評価方法】 受講状況と提出されたレポートで評価する。</p>
評価方法	
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	
授業計画	
テキスト	使用しないが、講義のなかで興味を持ったテーマについて、関連文献を読むことによって、自身で知識を深めるように努めて下さい。
参考書	講義の際に、関連文献を紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	
担当教員の实務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	
フィードバックの方法	
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	
使用言語	

SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	